



RESEARCH

お知らせ

Kyushu Medical Center

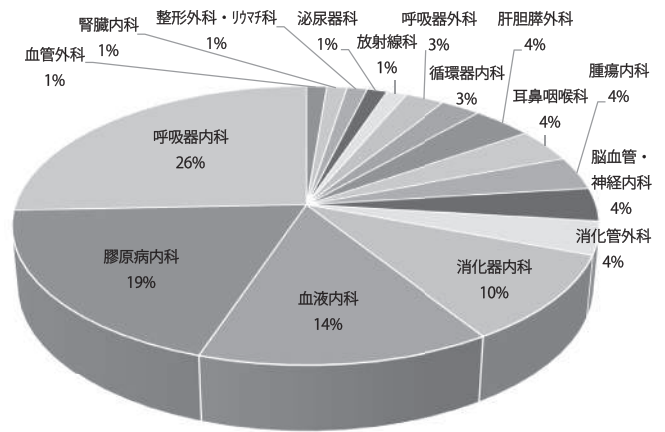
酷暑を抜け、やっと10月になりました。秋はいつも前年度の治験実績をご報告しています。令和5年度の治験実施は78課題でした。前年度に終了した課題が多かったため、総数は減少していますが、このうち新規治験は20課題と、ここ数年では最多となっています。

一昨年秋からSMO(治験施設支援機関)を、また当年度には電磁化システム(Agathaシステム)を導入したことにより業務効率があがり、活発な治験への参加と実施につながったものと思っています。

呼吸器内科・膠原病内科・血液内科という不動のトップ3に加え、たくさんの科が多く専門分野で治験を推進してくださっているのも当院の特徴の一つです。

令和6年10月
臨床研究センター長 高見 裕子

令和5年度 治験実施課題 疾患別割合(78課題、うち新規20件)



海外学会報告

Kyushu Medical Center

DDW2024 Washington DC参加記

消化器内科(消化管)

吉村 大輔

2024年5月18日から21日まで米国ワシントンDCで開催されました、DDW (digestive disease week) 2024に参加いたしました。本会は米国消化器病学会(AGA)、消化器内視鏡学会(ASGE)、外科学会(SSAT)、肝臓学会(AASLD)合同の米国最大級の学会で、国際学会ではありませんが基礎領域から臨床まで幅広く世界中から消化器病に関する研究が発表されます。2021年に当院に赴任させていただき、新たに診療を重ねる中でHPV感染関連扁平上皮癌の内視鏡所見に関して着想を得た演題が幸い採用され、5年ぶりの参加となった次第です。改めてこの場を借りて留守中の診療を支えてくれた消化管内科、内視鏡室、内科外来のスタッフの皆様、そして研究費を援助くださった中牟田誠先生はじめ関係各位に深く御礼申し上げます。ポストコロナの久しぶりの米国学会に毎日早朝から夕方までフル参加した所感を記します。

学術的には、消化器病領域で海外に学ぶべき点のひとつに炎症性腸疾患の最新治療が挙げられます。炎症性サイトカインなどを狙った生物学的製剤、低分子化合物の新規薬剤に関するデータが数多く初披露されました。例えばCrohn病の治療で特記すべき成果を上げたrisankizumabの潰瘍性大腸炎での成績はやや期待外れでしたが、海外の医療系ニュースサイトでは有効性を伝えるばかりで若干の違和感を感じました。コマーシャリズムに左右されない判断力の重要性を現地で感じました。内視鏡領域では技術的なことよりもシステムや仕組み作りの点が進歩的で、とくに筋骨格系疲労に着目した内視鏡エルゴノミクスと環境整備については、すぐに自施設でも取り組みを開始しました。また本邦で増加中の食道胃接合部腺癌

の高リスク集団スクリーニングの難しさは、欧米も共通であることを認識しました。

現地は米国自体の物価高に加えて急速に進行した円安のダブルパンチで、飛行機、宿泊など従来の2倍以上の費用を要し、外食に至っては日本の3倍以上かかりました。依頼原稿や帰国後の国内学会の準備が出来ていなかったので、夜は宿舎でオレンジジュースとプロテインバーで過ごし、デスクワークが捗りました。せめてもの思い出作りに米国首都が誇る世界最大のスミソニアン博物館を訪ねてみると、大統領公園周囲が現在の世界情勢に関するデモでごった返しており良い雰囲気ではなく、早々に引き上げました。

最後に、コロナ禍を経て自身の(もともと大したことのない)英語力が極度に低下していることを各所で実感し、ショックでした。特にリスニングが壊滅的で、現在通勤の際には英語のポッドキャストを聴いて挽回に努めています。雑多極まりない文章となりましたが、皆様の今後の海外学会参加のご参考になりましたら幸いです。



写真1; 早朝のWalter E. Washington Conference Center。シャトルバスが6時台から運行しているため安全に移動可能でした。



写真2; 大統領公園周囲の様子。

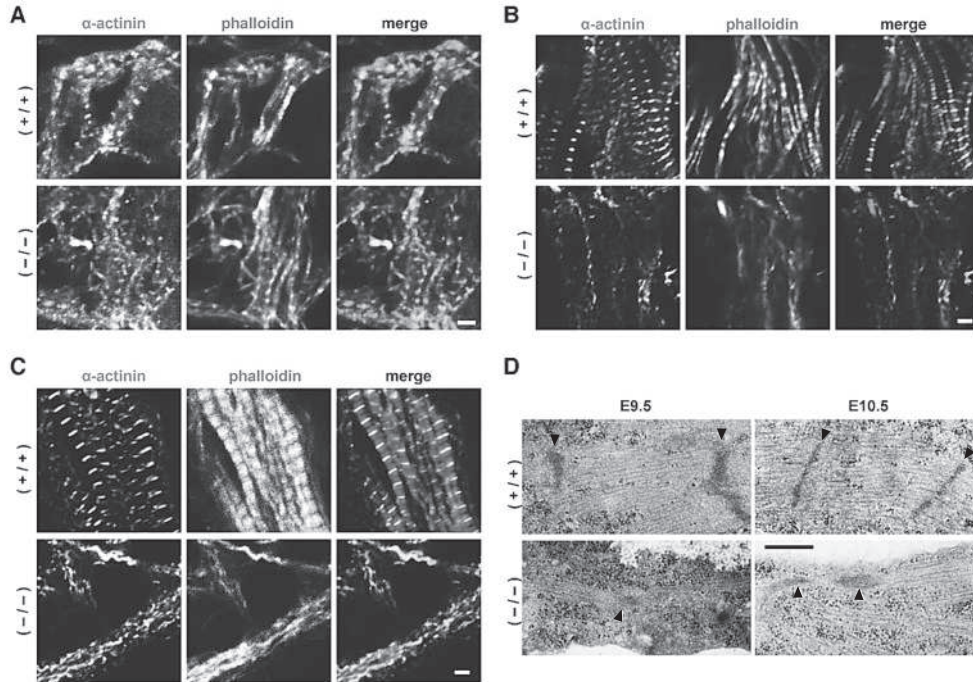
新任科長あいさつ

心臓血管外科

神尾 明君

7月1日より着任いたしました。変わった名前ですが、「かんおめいくん」と読みます。弁膜症や大動脈疾患などの成人心臓外科に関わってきました。

心臓外科医は手術中に心臓を止めたり、動かしたりします。心筋



Fhod3を欠損したマウス胎仔（下段）では正常な心筋サルコメアが形成されない（A:胎生8.5日 B:胎生9.5日 C:胎生10.5日 D:胎生9.5日と10.5日における電顕像）

収縮装置はアクチン繊維とミオシン繊維から成るサルコメアですが、これがいかに形成・維持されるかの全容は未だ明らかではありません。大学院時代は九州大学生化学教室で心筋細胞特異的に発現するアクチン結合タンパク質Fhod3の機能解析を行う機会を得ました。当時の住本英樹教授と武谷立講師（現宮崎大学医学部薬理学教授）のご指導のもとFhod3が心臓発生段階のサルコメア形成に必須であることを示しました。現在ではFhod3遺伝子変異が肥大型心筋症につながる事が明らかとなっています。研究成果もさることながら、一時臨床を離れて基礎研究に没頭したのは非常に良い経験でした。

また前任地の九州大学病院では「生体弁置換術後の抗凝固療法における直接経口抗凝固薬（DOAC）の安全性および有効性に関する多施設共同試験」に携わりました。生体弁は機械弁と異なり生涯にわたる抗凝固療法は不要ですが、術後3ヶ月間はワーファリンによる抗凝固療法が推奨されています。ご存知の通りワーファリンは食事や全身状態により効果変動やすく、定期的なモニタリングが必要です。試験の結果が出るのはまだ先になりますが、高齢でリスクの高い症例が増えている昨今、術後の不安定な時期にワーファリンではなくDOACが使えるようになれば患者と医療者の双方に大きな福音となると期待しています。

今後は、まず手術症例数をしっかり維持、さらには増加を目指した上で、当院の特徴を生かした臨床研究成果を発信していきたいと思っています。皆様ご指導の程、どうぞ宜しくお願いいたします。

臨床研究報告 最優秀学術賞

間質性肺炎の予後と治療反応性を予測するバイオマーカー；ペリオスチンの研究

呼吸器内科

岡元 昌樹

【研究の背景、目的】

間質性肺炎は日本人の死因の第11位に位置する難病であり、抗線維化薬の早期介入の是非は臨床的問題点である。

我々は、インテグリンのリガンドであるペリオスチンが間質性肺炎の線維化に関与し、早期治療介入のdecision-making biomarkerとなり得るかを解析した。

【方 法】

多施設前向き試験に参加した、関節リウマチ関連間質性肺疾患（RA-ILD）、特発性肺線維症（IPF）のニンテダニブ投与例を対象として、単量体、総ペリオスチンの血清値をELISAで測定した。

【結 果】

①RA-ILDの解析（J Clin Med. 2023）

RA-ILD19例、ILD非合併RA20例、健常コントロール（HC）137例を対象とした。全バイオマーカーは、HCまたはILD非合併RAよりもRA-ILDの方が高かった。ROC解析における各バイオ

マーカーのILD検出能（AUC）は、KL-6.0.939、単量体ペリオスチン0.803、総ペリオスチンとSP-D共に0.767と良好であった。単量体、総ペリオスチン値は、胸部CT上の線維化領域の範囲と正相関があり、UIPパターンでは他のCTパターンより高値であったが、KL-6、SP-D、LDH値は線維化領域の範囲と関連しなかった。慢性期および急性増悪期のRA-ILDの生検、剖検肺組織の免疫組織学的分析では、ペリオスチンは活動性線維性病変でのみ発現していた（図1）。

②IPFのニンテダニブ投与例の解析（Sci Rep. 2023）

IPF87例（年齢中央値72歳、男性78例）を対象とした。多変量解析において、総、単量体ペリオスチン値は、全生存期間の独立予測因子であったが、KL-6、SP-D、LDHは予測因子ではなかった。単量体、総ペリオスチンの高値例は低値例と比較して、ニンテダニブ投与6か月後の呼吸機能低下抑制効果が有意に高かった。

【考 察】

ペリオスチンは、RAにおけるILD合併の判別、線維化病変の広がりを予測し得る。IPFにおけるペリオスチン高値は全生存期間の短縮、抗線維化薬の良好な反応性と関連した。このことはペリオスチン高値のIPFでは、早期の治療介入が必要であることを示している。

【結 語】

ペリオスチンは、間質性肺炎治療のdecision-making biomarkerとなり得る。

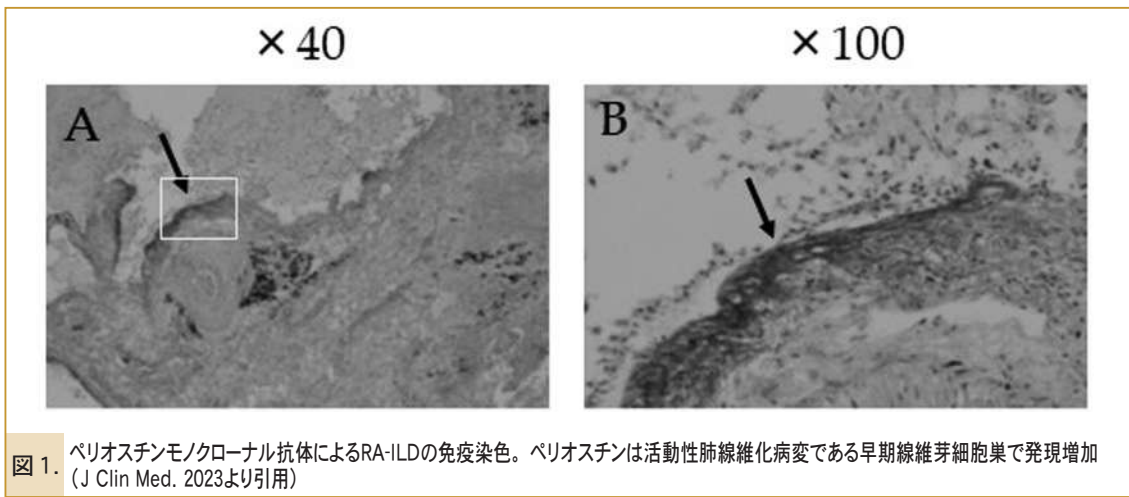


図1. ペリオスチン/クローナル抗体によるRA-ILDの免疫染色。ペリオスチンは活動性肺線維化病変である早期線維芽細胞巣で発現増加 (J Clin Med. 2023より引用)

令和5年度 研修医・専攻医 業績一覧 Kyushu Medical Center

| 論文 | 専攻医 | First Author | 所属科 | タイトル | 雑誌名、書名 |
|--------|--------|--------------|--|---|----------------|
| | 専攻医 | 安部 大介 | 脳血管・神経内科 | 肺炎球菌性髄膜炎の経過中に多発性脳梗塞を発生し、diffuse cerebral intravascular coagulationの病態が示唆された1例 | 脳卒中 |
| 専攻医 | 大久保彰人 | 消化器内科 | 縦隔食道瘻（大動脈人工血管置換術後） | 消化器内視鏡 増刊号 特集 食道疾患アトラス | |
| 専攻医 | 大久保彰人 | 消化器内科 | サイトメガロウイルス食道潰瘍 | 消化器内視鏡 増刊号 特集 食道疾患アトラス | |
| 専攻医 | 西井 裕哉 | 呼吸器内科 | Successful Treatment of a Patient with Drug-Refractory Rheumatoid Arthritis-Associated Interstitial Lung Disease with Upadacitinib: A Case Report. | MEDICINA-LITHUANIA | |
| 研修医 | 稲富 健 | 整形外科・リウマチ科 | 胸腰椎固定術を施行された関節リウマチ患者の臨床的特徴 | 整形外科と災害外科 | |
| 専攻医 | 岩橋 秀明 | 臨床検査科・病理診断科 | Fatal pulmonary embolism resulting from a popliteal venous aneurysm | Circulation-Cardiovascular Imaging | |
| 表彰 | 表彰者名 | 所属科 | 表彰名 | 受賞内容（学会演題、論文タイトル、共同演者、共著）等 | |
| | 研修医 | 内屋敷佳弘 | 呼吸器内科 | 第120回日本内科学会講演会 医学生・研修医・専攻医の日本内科学会ことはじめ2023東京 優秀演題賞 特発性間質性肺炎のバイオマーカーとしての自己抗体の解析 | |
| 研修医 | 山田 佳奈 | 呼吸器内科 | 第91回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性抗酸菌症学会・日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会 九州支部秋季学術講演会 育成賞 | 小細胞肺癌の化学療法中に合併した有痙性膿胸に対して胸壁開窓術を実施した一例 | |
| 研修医 | 石原 裕基 | 呼吸器内科 | 第16回福岡県医学会総会 優秀ポスター賞（研修医部門） | 無症状の間質性肺疾患に対する抗線維化薬早期介入の治療成績 | |
| 研修医 | 久原 洋平 | 膠原病内科 | 第67回九州リウマチ学会 初期研修医セッション 最優秀演題賞 | COVID-19罹後後に発症したCytokine storm Syndromeの一例 | |
| 研修医 | 吉田 健人 | 膠原病内科 | 第67回九州リウマチ学会 初期研修医セッション 優秀演題賞 | 喀痰排出不全による気道閉塞および高度嚥下障害を呈した多発性筋炎の一例 | |
| 専攻医 | 高村 優希 | 整形外科・リウマチ科 | 第10回九州足の外科研究会 優秀演題賞 | 関節リウマチの足部変形における、創外固定を用いた変形矯正 | |
| 研修医 | 衣笠 哲矢 | 消化器外科 | 第60回九州外科学会 研修医セッション 優秀演題賞 | 当科における膿瘍形成性虫垂炎に対するInterval Appendectomyの治療成績について | |
| 学会・講演会 | 演者 | 所属科 | 演題 | 学会名 | |
| | 専攻医 | 加野 哲平 | 総合診療科 | 著名な貧血、食欲低下、炎症反応亢進で紹介された70代女性の一例 第28回日本病院総合診療医学会学術総会 | 第66回九州総合診療セミナー |
| 専攻医 | 吉田 萌 | 代謝内分泌内科 | 絶食グルカゴン負荷試験陰性であったインスリンノーマの1例 | 日本内科学会第341回九州地方会 | |
| 専攻医 | 武田 七海 | 代謝内分泌内科 | ロキサチュスタット使用中にTSH低下をきたした1例 | 第23回日本内分泌学会九州支部学術集会 | |
| 専攻医 | 吉玉 健人 | 膠原病内科 | リツキシマブが奏効した肥厚性硬膜炎合併顕微鏡的多発血管炎の一例 | 第67回日本リウマチ学会総会 | |
| 専攻医 | 野中 貴史 | 膠原病内科 | IVCY療法が奏効したLibman-Sacks型心内膜炎の症例 | 第66回九州リウマチ学会 第136回福岡リウマチ懇話会 | |
| 研修医 | 久原 洋平 | 膠原病内科 | 環軸椎不安定症を契機に診断された関節リウマチの症例 | 第137回福岡リウマチ懇話会 | |
| 専攻医 | 野中 貴史 | 膠原病内科 | HTLV-1関連脊髄症との鑑別に苦慮した横断性脊髄炎合併シェーグレン症候群の1例 | 第67回九州リウマチ学会 | |
| 研修医 | 深川 悠太 | 血液内科 | 肝浸潤により肝不全を合併した特発性好酸球増多症候群（HES）の1例 | 日本内科学会 第343回九州地方会 | |
| 専攻医 | 井上 真凜 | 腎臓内科 | 治療に難渋しリツキシマブにより肺出血を来さず臨床的寛解を得た抗GBM抗体型糸球体腎炎の一例 | 第53回日本腎臓学会西部学術大会 第14回福岡県透析医学会 学術集会・総会 | |
| 専攻医 | 今村 裕佑 | 脳血管・神経内科 | Exploring the Relationship between Pupillary Response and Stroke Outcome | Asia Pacific Stroke Conference 2023 | |
| 研修医 | 林田 寛之 | 脳血管・神経内科 | 関節リウマチ治療中にリステリア髄膜炎を発生し治療が奏効した1例 | 第240回日本神経学会九州地方会 | |
| 研修医 | 衣笠 哲矢 | 脳血管・神経内科 | パーキンソン病を基礎としてに熱中症、左上肢コンパートメント症候群を呈した1例 | 第241回日本神経学会九州地方会 | |
| 研修医 | 堀太 佑 | 脳血管・神経内科 | リパーロキサパンにて心内血栓の消失を認めた心原性脳塞栓症の一例 | 第241回日本神経学会九州地方会 | |
| 研修医 | 林田 寛之 | 脳血管・神経内科 | 血清BNP値とアテローム血栓性脳梗塞の重症度の関連 | 第49回日本脳卒中学会 | |
| 研修医 | 納富 茅壽 | 脳血管・神経内科 | COVID-19感染後に発症した抗MOG抗体関連脳幹脳炎の一例 | 第243回日本神経学会九州地方会 | |
| 専攻医 | 尾崎 雄一 | 脳血管・神経内科 | 脳および肝膿瘍を発生したKlebsiella感染症の一例 | 第243回日本神経学会九州地方会 | |
| 専攻医 | 今村 裕佑 | 脳血管・神経内科 | 瞳孔反応による脳卒中予後評価の確立 令和5年度NHO脳卒中分野ネットワークグループ会議 | 令和5年度第2回国立病院機構ネットワーク共同研究 心脳大血管グループ会議 | |
| 専攻医 | 糸永 周一 | 消化器内科 | 亜有莖性の形態を呈した胃悪性性リンパ腫の1例 | 第121回日本消化器病学会九州支部例会 | |
| 専攻医 | 川口 夢佳 | 消化器内科 | 胆嚢摘出術時の離断型腸管損傷に対して経皮および内視鏡治療が奏効した1例 | 第115回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 | |
| 専攻医 | 本間 仁 | 消化器内科 | Meckel憩室による内ヘルニアにより腸閉塞を来した1例 | 第121回日本消化器病学会九州支部例会 | |
| 研修医 | 空閑 亮太 | 消化器内科 | Obscure gastrointestinal bleedingをきたした空腸異所性腺の1例 | 第115回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 | |
| 研修医 | 日野 直人 | 消化器内科 | SGLT2阻害薬の術前休薬がなかったために肝細胞癌術後に正常血糖性ケトアシドーシスが生じた1例 | 第121回日本消化器病学会九州支部例会 | |
| 研修医 | 空閑 亮太 | 消化器内科 | 小腸重積を契機に偶発的に発見された異所性腺の1例 | 第122回日本消化器病学会九州支部例会 | |
| 研修医 | 久原 洋平 | 消化器内科 | 頸部食道に狭窄をきたした水疱性類天疱瘡の1例 | 第116回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 | |
| 専攻医 | 興津 亮太 | 消化器内科 | 直腸前壁に粘膜脱症候群に類似した隆起性病変を呈した若年男性の1例 | 第122回日本消化器病学会九州支部例会 | |
| 専攻医 | 興津 亮太 | 消化器内科 | ESD病理所見から乳癌の胃転移と診断された1例 | 第123回日本消化器病学会九州支部例会 | |
| 研修医 | 田屋 ことわ | 消化器内科 | 腫瘍破裂で急速な転帰を辿った肝原発血管肉腫の一例 | 第45回日本肝臓学会西部会 | |
| 研修医 | 内屋敷佳弘 | 呼吸器内科 | 特発性間質性肺炎のバイオマーカーとしての自己抗体の解析 | 第120回日本内科学会 | |
| 研修医 | 石原 裕基 | 呼吸器内科 | 無症状の間質性肺疾患に対する抗線維化薬早期介入の治療成績 | 第16回福岡県医学会総会 | |
| 研修医 | 山田 佳奈 | 呼吸器内科 | 小細胞肺癌の化学療法中に合併した有痙性膿胸に対して胸壁開窓術を実施した一例 | 第91回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性抗酸菌症学会九州支部 秋季学術講演会 | |

| 学会・講演会 | 演者 | 所属科 | 演題 学会名 | |
|--------|-------|------------|---|--|
| | | | 演題 | 学会名 |
| 専攻医 | 西井 裕哉 | 呼吸器内科 | クリゾチニブにより重篤な眼毒性が出現したROS-1陽性肺腺癌の一例 | 第64回日本肺癌学会九州支部学術総会 |
| 研修医 | 空閑 亮太 | 呼吸器内科 | 6分間歩行試験におけるSpO2低下は、線維化性間質性肺疾患の重症度、進行性肺線維化の独立関連因子である | 第91回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性抗酸菌症学会九州支部 秋季学術講演会 研修医こははじめ |
| 研修医 | 古賀早紀子 | 呼吸器内科 | アレルギー性気管支肺アスペルギルス症治療中に有菌性アスペルギルス膿胸に移行した1例 | 第91回日本呼吸器学会・日本結核 非結核性抗酸菌症学会九州支部 秋季学術講演会 研修医こははじめ |
| 研修医 | 鈴木裕美佳 | 循環器内科 | 急性心外膜炎で発症し6年後に非感染性心内膜炎を合併した全身性エリテマトーデスの一例 | 第134回日本循環器学会九州地方会 |
| 研修医 | 渡邊 果穂 | 循環器内科 | 診断に苦しめた心腔内腫瘍の1例 | 第134回日本循環器学会九州地方会 |
| 研修医 | 島 千波 | 循環器内科 | 成人期に診断された重症先天性僧帽弁狭窄症の一例 | 第135回日本循環器学会九州地方会 |
| 研修医 | 酒井 莉奈 | 循環器内科 | 急性心筋梗塞後に右室自由壁破裂と心室中隔破裂穿孔と右室自由壁破裂を合併した一例 | 第135回日本循環器学会九州地方会 |
| 研修医 | 金堂円太郎 | 小児科 | HIV感染症の周産期 | 第278回福岡市新生児ジョイントカンファレンス |
| 専攻医 | 古賀 雅子 | 小児科 | 当院で経験した総肺静脈還流異常症の検討 | 第281回福岡市新生児ジョイントカンファレンス |
| 専攻医 | 井上 峻介 | 精神科 | 身体合併症の治療拒否をした2例の比較 | 第75回九州精神神経学会 |
| 専攻医 | 高木 美緒 | 放射線科 | 画像所見と既往歴の確認によりBirt-Hogg-Dubé 症候群が強く疑われた一例 | 第197回日本医学放射線学会九州地方会 |
| 専攻医 | 白石 貴大 | 放射線科 | 右腎静脈から発生し右房内に進展したと考えられる平滑筋肉腫の一例 | 第197回日本医学放射線学会九州地方会 |
| 研修医 | 納富 茅壽 | 消化管外科 | 切除不能進行胃癌に対してSOX+Nilvolumab療法後にConversion Surgeryを行い、病理学的完全奏功が得られた1例 | 第260回福岡外科集談会 |
| 専攻医 | 岩崎 恒 | 消化管外科 | 門脈血栓症、小腸壊死に対する術後に肺塞栓症を発症し心肺停止となったが救命し得た1例 | 第60回九州外科学会 |
| 専攻医 | 松岡 史生 | 消化管外科 | 横隔膜ヘルニア嵌頓による横行結腸穿孔、左胸膈に対して腹腔鏡、胸腔鏡下に合同手術を行った一例 | 第60回九州外科学会 |
| 研修医 | 衣笠 哲矢 | 消化管外科 | 当科における腫瘍形成性虫垂炎に対するInterval Appendectomyの治療成績について | 第60回九州外科学会 |
| 研修医 | 加瀬 蒼 | 肝胆脾外科 | 高跳びからの落下を契機に発症した胆嚢捻転症の1例 | 第122回日本消化器病学会 九州支部例会 |
| 研修医 | 藤吉 凌万 | 肝胆脾外科 | 胆嚢動脈起始部に動脈瘤を合併した巨大限局性結節性過形成の1例 | 第122回日本消化器病学会 九州支部例会 |
| 研修医 | 酒井 莉奈 | 乳腺外科 | 化学療法抵抗性乳癌に対して胸壁合併乳房切除術を施行した1例 | 第21回日本乳癌学会九州地方会 |
| 研修医 | 堀 遥 | 乳腺外科 | 腋窩部異所性乳腺に発生した葉状腫瘍の1例 | 第85回日本臨床外科学会総会 |
| 研修医 | 藤吉 凌万 | 乳腺外科 | 救急搬送にてオンコロジーエマージェンシーと間違われた豊胸術後の1例 | 第59回九州内分泌外科学会 |
| 研修医 | 細山田融祐 | 呼吸器外科 | 血管走行異常を伴う肺癒手術の2例 | 第260回福岡外科集談会 |
| 研修医 | 坂口 魁哉 | 呼吸器外科 | 左側の中縦隔腫瘍に対し右胸腔からロボット支援下アプローチした2例 | 第260回福岡外科集談会 |
| 研修医 | 金堂円太郎 | 呼吸器外科 | 肺癌術後に漏斗胸増悪し心肺機能低下を来した一例 | 第56回日本胸部外科学会九州地方会総会 |
| 研修医 | 廣瀬 雄一 | 小児外科 | 遺糞症に対し小建中湯と柴胡加竜骨牡蛎湯が著効した1例 | 第27回日本小児外科漢方研究会 |
| 研修医 | 酒井 莉奈 | 心臓血管外科 | 急性心筋梗塞後に心室中隔穿孔と右室自由壁破裂を合併した1例 | 第135回日本循環器学会九州地方会 |
| 研修医 | 桑原真理絵 | 血管外科 | 腸骨一大腿深動脈バイパスに拡大大腿深動脈形成術を追加した1例 | 第260回福岡外科集談会 |
| 研修医 | 桑原真理絵 | 血管外科 | 弁機能不全を伴う大伏在静脈を用いて足背動脈バイパスを行ったCLTIの1例 | 第120回日本血管外科学会九州地方会 |
| 研修医 | 鈴木裕美佳 | 血管外科 | 複数回のバルーン拡張後の総大腿動脈に血栓内膜摘除を施行した1例 | 第120回日本血管外科学会九州地方会 |
| 研修医 | 石原 裕基 | 血管外科 | 腎動脈を有する腹部・腸動脈瘤に対して温存、閉塞、再建した手術症例 | 第60回九州外科学会 |
| 専攻医 | 有菌 奨 | 整形外科・リウマチ科 | 20年間の中で変化したリウマチ患者に対する胸腰椎固定術 | 第52回日本脊椎脊髄病学会学術集会 |
| 専攻医 | 甲斐 一広 | 整形外科・リウマチ科 | ヒト滑膜組織常在性マクロファージの関節リウマチ病態に伴う機能変化 | 第67回日本リウマチ学会総会・学術集会-Workshop |
| 専攻医 | 有菌 奨 | 整形外科・リウマチ科 | 関節リウマチ (RA) 患者における脊椎固定術の経時的変遷について | 第67回日本リウマチ学会総会・学術集会-Workshop |
| 専攻医 | 宮房 玲奈 | 整形外科・リウマチ科 | リウマチ股に対する人工股関節置換術において、周術期インプラント周囲骨折の危険因子は何か？ | 第52回日本リウマチの外科学会 第50回日本股関節学会学術集会 |
| 専攻医 | 矢野 裕太 | 整形外科・リウマチ科 | びまん性特発性骨増殖症による気道閉塞に対してV-V ECMOで術中気道管理を行った一例 | 第145回西日本整形・災害外科学会学術集会 |
| 専攻医 | 鈴木真由佳 | 整形外科・リウマチ科 | 関節リウマチ足関節障害に対する外側進入型人工足関節置換術 | 第145回西日本整形・災害外科学会学術集会 |
| 専攻医 | 高村 優希 | 整形外科・リウマチ科 | 高度な外反扁平足に対して創外固定を用いて二期的矯正固定を施行した関節リウマチの治療経験 | 第66回九州リウマチ学会 |
| 専攻医 | 高村 優希 | 整形外科・リウマチ科 | 当院における女性医師の職場環境と取り組み | 第146回西日本整形・災害外科学会学術集会 |
| 専攻医 | 高村 優希 | 整形外科・リウマチ科 | 関節リウマチに伴う高度足部変形に対し創外固定 (Taylorspatial frame) を用いて変形矯正を行った3例 | 第146回西日本整形・災害外科学会学術集会 |
| 専攻医 | 武富 映典 | 泌尿器科 | 胸水貯留と腎腫瘍を契機に発見された全身性アミロイドーシスの一例 | 日本泌尿器科学会福岡地方会第312回例会 |
| 専攻医 | 貴島 惇博 | 泌尿器科 | 右心房内腫瘍全摘出術を施行した腎癌の二例 | 第313回日本泌尿器科学会福岡地方会 |
| 専攻医 | 前川 博紀 | 泌尿器科 | 後腹膜に発生した多房性変化を伴う神経鞘腫の1例 | 第313回日本泌尿器科学会福岡地方会 |
| 専攻医 | 弓削 昂大 | 眼科 | Guillain-Barre症候群に対する免疫グロブリン療法施行後にPRESを合併し視力障害を認めた1例 | 九州大学眼科研究会 |
| 専攻医 | 大塚裕一郎 | 産科・婦人科 | 術前に卵巣癌を疑ったが開腹手術後にMeckel憩室癌と診断した1例 | 第75回日本産科婦人科学会学術講演会 |
| 専攻医 | 竹内 優 | 産科・婦人科 | 無痛吸引分娩後に発症した子宮破裂の一例 | 第79回福岡周産期懇話会 |
| 専攻医 | 片岡 寧々 | 産科・婦人科 | 梅毒治療後妊婦から先天梅毒を発症した1例 | 第78回福岡周産期懇話会 |
| 専攻医 | 片岡 寧々 | 産科・婦人科 | 梅毒抗体価低値の妊婦から先天梅毒が発症し梅毒感染の診断に至った1例 | 第167回福岡産科婦人科学会 |
| 専攻医 | 竹内 優 | 産科・婦人科 | 24歳で単純子宮全摘出を行った富細胞性平滑筋腫の1例 | 第168回福岡産科婦人科学会 |
| 専攻医 | 古賀さくら | 産科・婦人科 | 帝王切開術後の2回目の経腔分娩 (VBAC) で子宮破裂を来した一例 | 第168回福岡産科婦人科学会 |
| 専攻医 | 北川 理奈 | 耳鼻咽喉科 | 当院における鼻副鼻腔悪性腫瘍の検討 | 第32回日本頭頸部外科学会総会 |
| 専攻医 | 北川 理奈 | 耳鼻咽喉科 | 顔面巨大腫瘍を契機に診断した節外性NK/T細胞リンパ腫、鼻型の1例 | 第192回耳鼻咽喉科・頭頸部外科学術講演会 (第552回九州地方会) |
| 専攻医 | 中崎 由唯 | 歯科・歯科口腔外科 | 当科で抜歯を行ったARA投薬患者のMRONJ症に関する臨床的検討 | 第91回 (公社) 日本口腔外科学会九州支部学術集会 |
| 専攻医 | 赤瀬 稜 | 歯科・歯科口腔外科 | 上顎歯肉に発症したHIV関連悪性リンパ腫の一例 | (公社) 日本口腔外科学会若手口腔外科医委員会主催 第1回若手口腔外科医交流会 |
| 専攻医 | 山手 佳苗 | 歯科・歯科口腔外科 | COVID-19流行下の嚥下内視鏡検査の実際 | 第14回日本臨床栄養代謝学会九州支部学術集会 |
| 研修医 | 沼田 純 | 歯科・歯科口腔外科 | 当科で手術を施行した上顎骨MRONJ患者の臨床的検討 | 第33回 (一社) 日本有病社歯科医療学会総会・学術大会 |
| 専攻医 | 米澤 暁 | 歯科・歯科口腔外科 | 右側頬部に生じた鶏卵大の脂肪腫の1例 | 第33回 (一社) 日本有病社歯科医療学会総会・学術大会 |
| 研修医 | 谷口 晃大 | 歯科・歯科口腔外科 | 下顎骨に発生した顎骨中心性腺様嚢胞癌の1例 | 第33回 (一社) 日本有病社歯科医療学会総会・学術大会 |

「脳血管障害患者の瞳孔反応とせん妄の関連性の調査」に対する研究助成金を受けて

3階東病棟

急性・重症患者看護専門看護師 ▶ 藤田 克徳

せん妄は、急性脳症に基づく神経精神症候群であり、一時的な症状ですが、認知機能低下や入浴・更衣・トイレ・移動・食事などの基本的ADL低下を認め、治療の阻害や合併症を伴い入院期間を長期化させる^{1,2,3)}とされています。また、せん妄はPICS（集中治療後症候群）の認知機能障害を引き起こすリスク因子であり、入院中・退院後の患者のQOLの低下や家族の負担を増大させないためにも早期からのせん妄予防ケアは重要です。せん妄はICU入室患者に多く認められますが、脳血管障害患者にも多く見られる合併症であり、脳血管障害患者のせん妄発生率は、16～25%⁴⁾とされています。脳血管障害患者は意識障害や神経症状を随伴するため、特にせん妄の診断が難しく、他の疾患よりも介入が遅れやすいことから簡便な指標が求められます。近年、ICUなどで瞳孔記録計（NPI-200）を用いたせん妄の研究が行われており、瞳孔収縮率と平均拡張速度は、ICUでのせん妄診断における客観的指標の一つとなる可能性がある⁵⁾と報告されていますが、脳血管疾患を対象とした研究は多くありません。そのため、脳血管障害患者の瞳孔反応とせん妄の関連性を明らかにすることができれば、せん妄に対する予防的または早期改善に向けた介入ができ、結果的にPICSを予防し救急・集中治療を受けた患者の長期的なQOLの向上に繋がるのではないかと考えました。本研究は瞳孔記録計を用いるため、購入するための研究費用が必要となり、テルモ生命科学振興財団に研究助成金に応募したところ、採択を受け研究を開始することができました。現在、今年度中の

学会発表、論文投稿を予定しています。

〈引用・参考文献〉

- 1) EW Ely, S Gautam, R Margolin et al : The impact of delirium in the intensive care unit on hospital length of stay. Intensive Care Med, 27 (12): 1892-900, 2001
- 2) EW Ely, A Shintani, Truman B et al : Delirium as a Predictor of Mortality in Mechanically Ventilated Patients in the Intensive Care Unit. JAMA. 291 (14): 1753-1762. 2004
- 3) FJ Abelha, Clara Luís, Cristina Santos et al : Outcome and quality of life in patients with postoperative delirium during an ICU stay following major surgery. Crit Care 17 (5): R257, 2013
- 4) Shaw RC. Et al. Occurrence rate of delirium in acute stroke settings: systematic review and meta-analysis. Stroke 50 (11). 3028-3026. 2019
- 5) 上村友二, 手平浩之, 伊藤遥. 瞳孔記録計は集中治療室で発症したせん妄を検出できる可能性がある. 第46回日本集中治療学会学術集会, 一般演題. (2019年3月1日, 国立京都国際会館1F スワン)

瞳孔記録計 NPI-200



| パラメータ | 測定単位 | 定義/演算 |
|-------|------|---|
| NPI | | 神経学的瞳孔指標：測定した以下のパラメータより算出。0.1～5.0で瞳孔指数を表示 |
| Size | mm | 縮瞳前の瞳孔径 |
| MIN | mm | 縮瞳後の瞳孔径 |
| CH | % | 縮瞳率 = (Size - MIN) ÷ Size |
| CV | mm/秒 | 平均収縮速度 = 縮小率 ÷ 縮小時間 (Average Constriction Velocity) |
| MCV | mm/秒 | 最大収縮速度 (瞳孔収縮中の最大速度) |
| LAT | 秒 | 光刺激による縮瞳開始までの反応時間 (Latency) |
| DV | mm/秒 | 平均拡大速度 = 縮瞳後の回復瞳孔径 ÷ 回復時間 (Average Dilatation Velocity) |

* 画像はIMI会社より提供

質量分析ラボ便り

おかげ様で8周年！
質量分析ラボ改めてのご挨拶

九州プロサーチ有責任事業組合

伊神 恒・古川 克己

2016年9月に「九州プロサーチ 質量分析ラボ」を開設し、おかげさまで今年から9周年を迎えることとなりました。弊ラボでは質量分析装置を用いた測定項目の開発、臨床研究のご相談、疾患メカニズムの解明などに取り組んでいます。また、研究課題の相談から取得データの考察に至るまで、研究のトータルサポートを実践しています。以下に支援技術の一部をご紹介します。ぜひ外来棟3階の質量分析ラボにお立ち寄りください。

■網羅分析

プロテオミクス (DIA法)：サンプル内の多様なタンパク質を対象とし、未知のターゲットも含めて網羅的に解析できます。探索研究において非常に強力なツールです。

メタボロミクス/リポミクス：アミノ酸、ビタミン、核酸などの水溶性代謝物 (メタボロ) や、脂肪酸、中性脂肪、リン脂質など脂肪成分 (リポド) を網羅的に分析する技術です。

RNA-seq：ヒト、マウスなど多種多様な生物種数万種類の遺伝子発現解析技術です。遺伝子の網羅的解析を初めて行う研究者にも基礎からサポートを提供しています。

■ターゲット分析

プロテオミクス (iMPAQ法)：数百種類のタンパク質を同時に定量可能な独自のタンパク質ターゲット定量分析技術です。昨年度からバージョンアップ版を追加し、マウスサンプルへの適用も可能となりました。

短鎖脂肪酸：短鎖脂肪酸はエネルギー源としてだけでなく、調節因子としての役割も報告されています。また、腸内細菌が産生する代

謝物としても広く知られています。

電気化学発光法による超高感度アッセイ：血漿や血清中の極微量サイトカインや増殖因子のマルチ測定には、本法が適しています。各種測定項目を取り揃えておりますので、お気軽にお問い合わせください。

1) 研究開発

- ✓九州医療センターとの共同研究
⇒臨床シーズの実用化

2) 研究支援

- ✓材料採取・保存条件の検証
- ✓検体前処理の受託
- ✓研究者のための技術セミナー
- ✓研究費獲得サポート

九州プロサーチ 質量分析ラボ

3) 研究検査

- ✓種々の検出器による幅広いターゲット物質に対応した受託分析
 - ・質量分析(プロテオミクス・メタボロミクス・分析法開発)
 - ・イムノアッセイ(ELISA, ECL)
 - ・遺伝子解析(RNA-seq・メタゲノム解析)

研究費 獲得サポート

..... 科研費など各種研究助成の申請をご支援します.....

サポート内容

- 質量分析を使った新規研究課題のご相談
- 研究課題に適した質量分析項目のご提案
- 研究費申請書類作成のご支援
- その他各種分析のご提案 (ELISA, RNA-seq等)

治験エントリーに向けた被験者の選択 (スクリーニング) について

臨床試験支援センター

岩川 ひとみ

治験 (特に企業主導治験) は、試験毎に全体の目標症例数が定められていますが、医療機関も施設毎に設定された「目標症例数」を契約の上、試験を進めています。そのため、まずは試験への適格性 (選択基準、除外基準等) を満たす患者さんをおいかに多く見出すかが非常に重要となります。

このプロセスを被験者のスクリーニング (以下、スクリーニング) と言いますが、現在、当院では主に以下の4つの方法を実施しております。

① 医師による診察中のスクリーニング

医師が診察中の患者さんに対して適格性を確認し、治験の説明を実施。同意補足説明のためCRCに連絡がきます。CRCは選択基準の合致、除外基準の抵触の有無、併用薬剤等の確認を行い、同意説明文書を用いた同意補足説明を実施します。

② CRCによる事前の電子カルテスクリーニング

治験実施計画書毎に選択基準の情報を絞り、データウェアハウス (DWH) を利用し定期的にスクリーニングを実施しています。候補となりそうな患者さんの電子カルテ掲示板に、選択基準に合致する旨や試験の概要などを記載し、診察時に医師に確認を

依頼しています。治験の候補となる場合はCRCに連絡をいただき、同意補足説明を行います。患者さんから得た情報を医師に伝え、治験への参加やスクリーニング検査の日程調整を行います。このCRCの事前スクリーニングの開始時期としては新規治験の合意の頃から実施しており、試験開始 (Site open後) の早期エントリーにつなげています。

③ 院内掲示ポスターによる募集

院内にポスターを掲示して患者さんに治験への協力を呼びかけています。ポスターを見て治験に関心があるという患者さんがいる場合は、医師から連絡が入り、CRCは同意補足説明を実施します。

④ 治験依頼者ホームページ、医療従事者専用サイト等での被験者募集

コールセンターなどを介し、事前に紹介患者さんに伝えてほしい事項の伝達、来院調整を行います。初回来院時は担当医から治験の説明後、CRCが同意補足説明を行います。このパターンでの患者さんは治験への参加を目的として来院されるため同意は得やすいのですが、初めて当院を受診する場合も多く、コミュニケーションを十分とり、選択基準・除外基準を厳しく確認する必要があります。

以上の方法でスクリーニングを実施することで契約症例数への早期達成と依頼者に信頼される質の高い治験を、適正かつ円滑に実施できると考えております。

これからも、効率的かつ質の高い治験が実施できるよう支援してまいります。引き続き、ご理解とご協力の程よろしくお願い致します。

令和6年度 院外表彰者のお知らせ

Kyushu Medical Center

日本内科学会九州支部

2023年 8月

受賞名 初期研修医奨励賞

受賞名 指導医賞

表彰者名 久原 洋平 (脳血管・神経内科)

表彰者名 溝口 忠孝 (脳血管・神経内科)

演題 アミロイドPET検査によりアルツハイマー型認知機能低下の併存を疑った1例

受賞名 初期研修医奨励賞

受賞名 指導医賞

表彰者名 甲斐 愛美 (血管内科)

表彰者名 高瀬 謙 (血管内科)

演題 TP53欠失を伴う未治療慢性リンパ性白血病に対して、Acalabrutinib+Obinutuzumabで加療した1例

あとがき



本稿執筆中の現在は連日の猛暑ですが、はるか遠くのフランスではオリンピックの各競技が日本の暑さにも負けないくらいに熱い闘いが繰り広げられています。誤審の多さやセーヌ川でのトライアスロン、エアコンがないうえに食事もいまいの選手村などあまりいい話題がないのが残念ですが、もともとオリッピ

クはアマチュアの祭典でかつては高校総体の国際版くらいの趣だったように思います。国威発揚と商業主義が進んで、注目が集まるようになった結果なのでしょう。これと多少似ているかもしれませんが、研究もお金になる研究が良い研究、という風潮があります。研究とは本来知的好奇心を満たすためにやるもので広い意味でのアマチュアリズムを失わずにいてほしいな、と切に願う次第です。

臨床研究推進部長 杉森宏

発行責任者: 臨床研究センター長
副センター長
各研究室室長・副室長: がん臨床研究部長
組織保存移植
動態画像
研究企画開発
化学療法
放射線治療開発
システム疾患生命科学推進
医療情報管理
臨床試験支援センター

高見裕子
楠本哲也
福士純一、高瀬 謙
野口智幸、桑城貴弘
中島寅彦、長谷川英一
田村真吾、武岡宏明
大賀才路、小川伸二
國府島庸之、渡邊哲博
福泉公仁隆、占部和敬
高見裕子、大丸資子、麻生嶋和子

臨床研究企画運営部長
臨床研究推進部長
医療管理企画運営部長
病態生理
生化学免疫
情報解析
臨床腫瘍病理
先端医療技術応用
医療システムイノベーション
教育研修

高見裕子
杉森 宏
福泉公仁隆
村里嘉信、岡元昌樹
宮村知也、富永光裕
福泉公仁隆、松尾俊宏
桃崎征也、岩能伸高、名本路花、藤原美奈子
小野原俊博、瓜生英興
溝口昌弘、徳永 聡
富永光裕、中村千夏子



独立行政法人 国立病院機構 九州医療センター

〒810-8563 福岡市中央区地行浜1丁目8番1号

TEL: 092-852-0700(代)
FAX: 092-846-8485

九州医療センターでは研究活動・研究費に関する不正を起させない組織風土を形成するためにコンプライアンス教育と啓発活動を実施しています。過去の臨床研究センター便り (Research) をホームページでご覧頂けます。
<https://kyushu-mc.hosp.go.jp/about/kohoshi.html#research>

九州医療センター
臨床研究センター便り

で検索